

多文化社会におけるテスト

企画

島田めぐみ (東京学芸大学)

複言語主義を掲げる欧州では、2001年、外国語教育におけるヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) が示された。日本においても、就労外国人、外国人学生や生徒が増加し、多言語多文化社会における言語教育、評価が課題となりつつある。そこで、本セッションでは、「多文化社会におけるテスト」をテーマに掲げ、日本語教育に影響を与える CEFR、外国籍住民の日本語能力評価、Can-do statements の活用、日本語能力テストにおける母語の影響 (DIF) について報告を受け、これからの言語能力評価について考えたい。

話題提供

- 誰のための CEFR ? —利用の範囲と限界— 42
 大橋理枝 (放送大学)
- Cds を利用した自己評価について 44
 島田めぐみ (東京学芸大学)
- 日本語能力テストで見出される DIF について 46
 井上俊哉 (東京家政大学)
- とよた日本語能力判定 —現状と課題— 50
 稲熊美保 (愛知文教大学)

テスト科学とプログラム評価の接点 ～ テスト科学の社会的貢献を目指して ～

企画

渡辺直登 (慶應義塾大学)

テスト科学はその発展の歴史の中で、個人の有する様々な属性を測定・評価することにより多くの努力を傾注してきた。そこで培われた豊潤な知識と方法を、個人のみならず、様々な社会的介入・実践プログラムの評価に用いることが、今日求められている。本セッションでは、テスト科学とプログラム評価の今日的な接点を探求するとともに、テスト科学が今後開拓すべきプログラム評価という領域の可能性について、研究・実践例を通じて討論する。

話題提供

プログラム評価： テスト科学からのアプローチ 56

安田節之 (西武文理大学)・渡辺直登 (慶應義塾大学)

企業における人材開発型メンタリング・プログラムの評価：

中堅製造業A社の事例から 58

林 洋一郎 (法政大学)・渡辺直登 (慶應義塾大学)

臨床研修医のメンタリング・プログラム導入の効果に関する研究 60

渡邊美寿津 (愛知医科大学)

指定討論

野口裕之 (名古屋大学)

渡辺直登 (慶應義塾大学)

ニューラルテスト理論

企画

熊谷龍一 (新潟大学)

ニューラルテスト理論は、順序尺度を測定の基軸とした、まさに生誕間もない新しいテスト理論である。そこには、これからの理論発展の躍動感とともに、理論的にまだまだこれから成熟すべき部分も抱えている。理論が成熟していくためには、多くの研究者が実際に理論を活用して、課題の発見・解決のプロセスを経ることが必須であろう。この企画セッションは、ニューラルテスト理論に関して、その中心概念、実際のテストへの応用、さらなるモデルの発展などの研究発表を通じて、理論のさらなる成熟化を期待し企画したものである。

話題提供

ニューラルテスト理論におけるDIF指標の提案 64
熊谷龍一 (新潟大学)

NTTの実践的利用：2段階モデルによる英語プレイスメント
テストの分析 66
木村哲夫 (新潟青陵大学)

NTTに基づく応用モデルの検討 -一対比較モデルと多次元
モデルを中心に- 68
宇佐美 慧 (東京大学)

ニューラルテスト理論 -資格試験のためのテスト標準化理論 72
荘島宏二郎 (大学入試センター)

司会

橋本貴充 (大学入試センター)